

漢字と平仮名のどちらで書くのか

—— 事/こと、時/とき、所/ところ、物/者/もの ——

Which should I write them in kanji or hiragana?

---“koto” (thing/matter), “toki” (time/in case of), “tokoro” (place/matter, content), “mono” (thing/person/matter, affair)—

These four Japanese words are very ambiguous. If these words represent reality, write them in Kanji.

If it is an abstract concept, write it in hiragana. For example, “toki” should be written in kanji (時)

when it means “real time”, and it should be written in hiragana (とき) when it represents an abstract concept such as “in case of an earthquake, protect yourself first”.

有限会社 アトリエ・ワン

Atelier Bow-Wow

貝島良太

Ryota KAIJIMA

「地震のトキは、まず身を守れ」のトキは漢字で「時」と書くのか、平仮名で「とき」と書くのか。意味は通じるから、どちらでも構わないという人もあろうが、正解はあるはずである。同様に、表記に迷う代表的なものとして、コト、トキ、トコロ、モノ(いずれも名詞)がある。そこで、今年はこれら4つの語について、漢字と平仮名の使い分け規則を調査し、結果をまとめてみた。なお、「下さい/ください」に代表される動詞の表記については、筆者の第1回目の研究論文(2009年発01)をご一読いただきたい。

1. はじめに

筆者は、マニュアル文を含む一般的なビジネス文書の執筆/校閲時における疑問点や注意点を、2009年から1年に1テーマずつ、この場で研究発表をしている。今年はその11回目である。今までの発表テーマを振り返ってみよう。2009年(第1回目)のテーマは、「ください/下さい」の使い分け^[1]であった。2010年は、助数詞の「ka」^[2]、2011年は、研究発表が中止。2012年は、ら抜き言葉^[3]、2013年は、句点と閉じ括弧^[4]、2014年は、接続詞の考察^[5]、2015年は、横書きの文章における句読点についての考察^[6]。2016年は、複合動詞への送り仮名の付け方^[7]、2017年は、項目番号の付け方^[8]、2018年は、用語集の作り方^[9]。2019年は、地名の「かすみがせき」を「霞ヶ関」、「霞が関」あるいは「霞ヶ関」などあるがどれが良いのか、用語表記の統一^[10]に関する考察をした。

<http://www.bow-wow.jp/sht3/data.html> の項番02

1から030にこれらの発表論文を掲載してあるので、ご一読いただければ幸甚である。

さて、今年のテーマは、コト、トキ、トコロ、モノについて、漢字と平仮名のどちらで書くのが良いのかである。動詞の「下さい/ください」の使い分け同様、筆者は学校で特に習った覚えはない。周囲の知人十数人(大学生から80歳代の老若男女、中には現役の小学校の国語の先生もいる)にも聞いたことがあるが、どの人も「まともには教わりも教えもしていない」と言っている。ほとんど「何となく適当にやっている」のである。

まず、50音順に「コト、トキ、トコロ、モノ」を見てみよう。

2. コト

最初は「コト」である。スーパー大辞林^[11]には次のように出ている。①が、いわゆる実態のある場合(生じた事柄、出来事、事態、事件、物事の状態や経過、事情、わけ、重大事)で、コトは漢字で「事」と書く。②以降が形式名詞の類で、「こと/ごと」と平仮名で書くよう

になっている。ただし、平仮名で書くことを明記してあるのは、②の㉗、㉘～㉚と③⑥⑦である。

スーパー大辞林<<引用開始>>

こと【事】

〔「こと(言)」と同源か〕「もの」が何らかの作用・機能・状態・関係などとして表現するありさまをいう語。「もの」が時間的に不変な実体のようにとらえられているのに対して、「こと」は生起・消滅する現象としてとらえられている。

- ① ㉗生じた事柄。出来事。事態。事件。「-は重大だ」「-の推移を見守る」「-の起こり」「どんな-が起こっても驚くな」
 - ㉘物事の状態や経過。事情。わけ。「-を分けて説明する」「-と次第によっては許せない」「くわしい-はあとで話します」
 - ㉙重大事。大変な事態。「もし彼に知られたら-だ」「一朝-ある時は」「-なきを得る」
- ② 形式名詞。上に修飾語を伴ってどんな事柄であるか限定される。
 - ㉚ある物事に関連する事柄。「自分の-は自分でしなさい」「試験の-を話す」「彼の-だからうまく処理するだろう」
 - ㉛ある人物が動作・心情の対象であることを示す。「彼は彼女の-が好きらしい」「私の-をほめてくれた」
 - ㉜〔「…の-をいう」「…の-ことだ」などの形で〕言葉が何かをさしていることを示す。「タイガーとはトラの-をいう」「今の話の某氏というのは遠藤さんの-だ」
 - ㉝行為。仕業。「自分のした-を反省しなさい」「今日はいい-をした」
 - ㉞言葉の内容。言葉の意味。「彼の言った-を聞いたか」「彼女は私の言う-がよくわからないらしい」
 - ㉟〔「…-ということだ」の形で〕うわさ。伝聞。「彼は来年留学するという-だ」
 - ㊱〔「…-ことがある(ない)」の形で〕経験。体験。「外国へ行った-がある」「それについて深く考えた-がない」
 - ㊲〔「…-ことにしている」の形で〕習慣。しきたり。「朝は六時に起きる-にしている」
 - ㊳〔「…-ことはない」の形で〕必要。「何も急ぐ-はない」「彼に同情する-はない」
 - ㊴〔「…-ことだ」の形で〕「…-のことが大事だ」の意を表す。「合格したかったら勉強する-だ」「風邪気味の時は早く寝る-だ」
 - ㊵〔「…-ことにする」の形で〕「…-という方針を決める(決心をする)」の意を表す。「試してみる-にしました」
 - ㊶〔「…-ことになる」の形で〕成り行き。結果。「黙っていたということは、認めた-になる」
- ③ 用言(あるいはそれに助動詞のついたもの)の連体形を受けて、それを体言化し、用言の表す作用・状態を体言的な概念に変える。…-ということ。「この際真実を述べる-が一番いい」「英語を話す-ができる」「彼が有能な-を認めない人はいない」「彼に裏切られた-は一生忘れられない」
- ④ 形容詞の連体形について、副詞化する。「うまい-やれよ」「長い-留守にする」
- ⑤ 人を表す名詞に直接続く。

㉗謙譲の人称やそれに準ずる語に付いて、それに関連していう意を示す。古くは謙譲に限らない。「私-このたび左記に転居致しました」「愚息-」

㉘通称に続いて本名を言う時に用いて、両者が同一人であることを示す。すなわち。つまり。「清水次郎長-山本長五郎」

⑥ 動詞の連用形、名詞・形容動詞の語幹などに付いて、その行為・状態を表す。多く「ごと」の形で用いる。「祝い-」「考え-」「はかり-」「芸-」「きれい-」

⑦ 名詞に付いて、そのまねをすることを表す。ごっこ。多く「ごと」の形で用いる。「まま-(飯事の意)」「鬼-(鬼ごっこの意)」(後略)

スーパー大辞林<<引用終了>>

正直言って、これは相当な文法知識がある人でないと読みこなせない部分や、取説などのビジネス文書ではまず使わない古語の例も入っている。次に**記者ハンドブック13版**^[12]、**日本語スタイルガイド**と**文部省用字用語例**での記述を見てみよう。

記者ハンドブック<<引用開始>>

こと

＝事 [主に具体的な事柄、実質名詞] 遊び事、荒事、争い事、あらぬ事、考え事、芸事、研究している事、事新しい、事欠く、事が面倒、事柄、事細かに、事足りる、事と次第によっては、事なかれ主義、事に当たる、事の起こり、事のついでに、事もあるうに、事もなげに、事を起こす、事を構える、作り事、出来事、悩み事、習い事、願い事、見事、物事、約束事

〔注〕「大ごと、人ごと、ひとごと」は平仮名書き。

＝こと [主に抽象的な内容、形式名詞] あんなことになって、うまいことを言う、勝手なことをするな、聞いたことがない、ことによると、このことは、準備しておくこと、…-することにしている、そんなこととは知らずに、人のことみたいに、見たこともない、見ることができる、読むこと

記者ハンドブック<<引用終了>>

大辞林と比べて、記者ハンドブックの方が漢字と平仮名の使い分け方の例がまとまって記載されているので、実用的で分かりやすいと思う。記者ハンドブックの解釈でいくと、大辞林の②以降は全部平仮名になるのではないかと感じる。とくに、作り事、芸事のような「〇〇ゴト」について、記者ハンドブックでは漢字に、大辞林では平仮名になっているところが悩ましい。「人ごと」と「大ごと」について、記者ハンドブックで平仮名にしているのは、多分、人事(じんじ)、大事(だいじ)との読み分けのためであろう。

次は、TC協会の**日本語スタイルガイド第3版**^[13]である。

日本語スタイルガイド<<引用開始>>

使う	使わない	品詞	使用例、他の品詞の場合の例
----	------	----	---------------

こと	事	形名	来ることもある、見たこともない 「事の起こり、考え事、聞いた事」のように、 具体的な事柄を表す名詞の場合は漢字 で書く。
----	---	----	---

日本語スタイルガイド《引用終了》

日本語スタイルガイドは、「事」を使う方には欄がなく、「こと」の注意書きとして扱っている。後述の「時(名詞)」と「とき(形式名詞)」を分けて扱っているのと一貫性がないようである。

最後の引用は**文部省用字用語例**である。これは昭和56年(1981)12月に文部省(現 文部科学省)内で作成する公用文を記述する場合の参考用に、省内で作成・配布されたものである。今なお、さまざまな用字用語集の標準表記の拠り所として利用されているものである。筆者が参照したものは**公用文の書き表し方の基準(資料集)増補二版**^[14]に収録されているものである。なお、平成23年(2011)3月に**文部科学省用字用語例**として酷似した内容のものが現行規則書として存在している。

文部省用字用語例《引用開始》

見出し	表外漢字・表外音訓等	書き表し方	備考
こと		事 …こと	事を起こす、事に当たる 許可しないことがある、私こと このたび
ことがら		事柄	次の事柄について

文部省用字用語例《引用終了》

本稿の執筆にあたり筆者が参照した用語集などは、上述の4冊の他に、**新聞用語集**^[15]、**読売新聞用字用語の手引き**^[16]、**毎日新聞用語集**^[17]、**朝日新聞の用語の手引き**^[18]、**NHK新用字用語辞典**^[19]、**NHK漢字表記辞典**^[20]、**日本語の正しい表記と用語の辞典**^[21]、**言葉に関する問答集**^[22]である。言葉に関する問答集には残念ながら「モノ」についての記述しかなかったので、**5. モノ**の項で該当部分を紹介する。

3. トキ

トキも、一般的には、実質的な時間(年代、時期、時点など)を示す場合は漢字で、「場合」に言い換えられるときは形式名詞なので平仮名とするというのが規則のようである。

したがって、同じ読みでも、文意によって漢字/平仮名の使い分けをしなくてはならない場合がある。ここでも、スーパー大辞林^[11]、記者ハンドブック^[12]、日本語スタイルガイド^[13]、文部省用字用語例の順に見ていこう。

スーパー大辞林《引用開始》

とき【時】

- ① 過去から未来へと限りなく流れ過ぎて、空間とともに、一切の出来事がそこで生起する枠のように考えられているもの。時間。「-のながれ」「遊びに興じて-の経つのもわすれる」
- ② 昔の時間区分。一昼夜を12等分する定時法では一時(いつとき)が今の2時間にあたるが、昼夜を分けてそれぞれを6等分する不定時法では季節・場所によって異なり、たとえば江戸(東京)の夏至ごろの昼の一時(いつとき)は約2時間40分、夜のそれはやく1時間20分で、1時間以上もの差があった。十二区分に十二支を配し、「子(ね)の時」「丑(うし)の時」などということが多い。
- ③ ある幅をもって考えられた時間。
 - ㊶年代、時代。「将軍綱吉の-」
 - ㊷話題にしている時代。その時世。「-の首相」「-の権力」
 - ㊸季節。時候。時節。「-は春」
 - ㊹時勢。世の成り行き。「-に従う」
 - ㊺誰かにとって都合の良い時勢。「-に遭(あ)う」
- ④ 一点として、またそれに近いものとしてとらえられた時間。
 - ㊶時刻。「-を告げる鐘」
 - ㊷漠然ととらえられたある時点、または時期。「-には酒を飲む」
 - ㊸何かをするのに都合の良い時機。好機。「-を待つ」「-を見て実行する」「-にかなう」
 - ㊹(「秋」とも書く)大事な時期。「危急存亡の-」
- ⑤ ある特定の動作や状態が起こる時間。おり。「この前彼に会った-は元気だった」「子供の-の思い出を話してくれた」
- ⑥ ㊶ある状況を伴った時間を抽象的に言う。場合。「どんな服装がよいかは-と場所による」「-に応じた判断が必要だ」
 - ㊷(連体修飾句を受けて)仮定的・一般的にある状況を表す。(…する)場合。「もし彼が不在の-には、どうするか」「頭が痛い-は、この薬をのむとよい」
- ⑦ 「時制(じせい)」に同じ。
- ⑧ (「どき」の形で)名詞や動詞の連用形の下に付いて、それにふさわしい、その盛んな。あるいはそういう状態の時間であることを表す。
 - ㊶時刻。時間帯。「昼飯-」「会社の引け-」「たそがれ-」
 - ㊷時節。季節。「花見-」「木(こ)の芽-」「梅雨(つゆ)-」
 - ㊸時機。機会。「書き入れ-」「売り-」「引き上げ-」
⇒刻(こく)・⇒時しも・⇒時として・時に

スーパー大辞林《引用終了》

記者ハンドブック《引用開始》

とき

- ＝時 [名詞。主に時期・時間・時刻そのものを示すとき] 売り時、書き入れ時、実行の時が来た、梅雨時、時が解決する、時々、時として、時と場合、時ならぬ、時には[たまには]、時の権力、時の流れ、一時の人、時は金なり、時を待つ、何時＝なんどき
- ＝とき [形式名詞。主に「…の場合」] 行けない

ときは連絡する、いざというとき、(もしも)帰ってきたときは、事有るとき、困ったときの神頼み、事故が起こったとき、社員を採用するとき、衆院解散のときは、・・・しようとするとき(に)は、都合の悪いとき

【注】使い分けに迷う場合は平仮名書き。

ときおり (副)時折

ときたま (時偶)⇒時たま

ときに (副)時に〔接続詞にも〕

ときめく

=時めく〔栄える〕今を時めく人気作家

=ときめく〔心が躍る〕期待・喜びで胸がときめく

記者ハンドブック《引用終了》

日本語スタイルガイド《引用開始》

使う	使わない	品詞	使用例、他の品詞の場合の例
とき	時	形名	行くときは、暑いときは
時	とき	名	時の人、時として
時折	ときおり	副	
時々	ときどき	副、接	
時に	ときに	副	

日本語スタイルガイド《引用終了》

文部省用字用語例《引用開始》

見出し	表外漢字・表外音訓等	書き表し方	備考
とき		時 ・・・とき	時の記念日 事故のときは連絡する

文部省用字用語例《引用終了》

「事/こと」よりは、「時/とき」の漢字/平仮名の使い分けの方が若干分かりやすい感じがする。しかし、例えば「地震のトキ」の場合、「あの地震のトキ、私は日本にいなかった」の「トキ」は時期や時点を意味するので漢字で、「あの地震の時、私は日本にいなかった」となる。いっぽう「地震のトキは、まず身を守れ」の「トキ」は、「場合」を意味するので、平仮名で「地震のときは、まず身を守れ」と表記することになる。

4. トコロ

ここでも、4冊を上述のものと同じ順番に紹介しよう。

スーパー大辞林《引用開始》

ところ

【所・△処】

[一] 空間的な位置・場所。

- ①ある地点。また、そのあたり。「遠い-から来た」「町を出た-に橋がある」「時と-を考える」「窓の-に立つ」
- ②ある地域。地方。「-変われば品変わる」
- ③住んでいる場所。住所。居所。「-番地」「書類に-と名前を書き込む」「-払い」
- ④家庭・社会・地域など、所属している社会。「兄の-は五人家族だ」「あなたの-では何人社員がいますか」「私の-ではまだそんな風習が残っている」
- ⑤ある箇所。部分。「口の上の-に吹き出物ができ

る」

⑥その者が所有している領地。「-には地頭強して、領家は弱く/太平記1」

⑦都から離れたいなか。在所。「かの人々を待ちて-の名所をも尋ねばや/謡曲・求塚」

⑧「蔵人(くろうど)所」「武者所」の略。

[二] 抽象的な事柄についての位置や場面など。

①ふさわしい部署・地位。「-を得た人事配置」

②時間の流れの中にある部分を漠然とさす。場面。段階。「今の-は心配がない」「今日の-はこの程度にしておきます」「すんでの-で助かる」

③連体修飾語を受けて用いる。

⑦ちょうど何かをしようとする、あるいは、何かをしたばかりの場面・状況であることを表す。ちょうどその時。ほかならぬその時点。「出かけようとする-に来客があった」「もうすぐ式が始まる-だ」「今し方外出した-だ」

⑧特定の状況における事態を表す。場合。「彼女が一人で歩いている-を見たことがある」「普通の人間なら当然おこり出す-だ」

⑨抽象的な箇所を表す。点。部分。「彼には人をひきつける-がある」「小説のおもしろい-だけ話す」

⑩そこに示されている内容のことであることを表す。・・・すること。・・・であること。「自分の信ずる-を述べる」「聞く-によると」

④数量を表す語に「が」を介して付いて、そのぐらゐのていどであることを表す。くらい。「千円が-損をした」

[三] (形式名詞)

①〔漢文の「為A所B」を「AのBするところとなる」と訓読したことから〕状態。成り行き。「人の知る-となった」

②〔漢文訓読で連体修飾の「所」を直訳したことから生じた用法。近代では西洋語の関係代名詞の翻訳にも用いられるようになった〕用言に付き、「・・・ところの」の形で、連体修飾語をつくる。「彼のめざす-の理想」「私が愛する-の家族」

[四] (「どころ」の形で)

①動詞の連用形の下に付いて、それをするのにふさわしい部分・場所を表す。「見-」「つかみ-がない」

②名詞の下に付いて、それがたくさんとれるところを表す。「米-」「茶-」

③名詞・形容動詞の語幹の下に付いて、それに該当する人たちの意を表す。「きれい-」「社の幹部-が集まった」

④名詞の下に付いて、それを扱う場所・役所を表す。「台盤-」「御息(みやすん)-」「大歌-」「蔵人(くろうど)-」

スーパー大辞林《引用終了》

記者ハンドブック《引用開始》

ところ

= (処)⇒所 [位置、場所] ある所、行く所、至る所、居所、勘所、所書き、所嫌わず、所狭し、所々、所払い、所番地

=ところ [位置、場所以外や誤読のおそれがある場合]今のところ、腕の見せどころ、落としどころ、思うところ、考えどころ、このところ、米どころ、思案のしどころ、・・・したところが駄目だった、勝負

どころ、…するどころの騒ぎではない、それは望むところだ、つかみどころ、つまるところ、出どころ、ところで、狙いどころ、非の打ちどころ、法律の定めるところ、役どころ

記者ハンドブック《引用終了》

日本語スタイルガイド《引用開始》

使う	使わない	品詞	使用例、他の品詞の場合の例
ところ	所	形名、助	今のところ、聞いたところでは「ある所に行く、広々とした所」のように、名詞として使う場合は漢字で書く。

日本語スタイルガイド《引用終了》

文部省用字用語例《引用開始》

見出し	表外漢字・表外音訓等	書き表し方	備考
ところ	△ 処	所 …ところ	家を建てる所、所書き 現在のところ差し支えない
ところが (接続詞)	所が	ところが	ところが(接続詞)
ところで (接続詞)	所で…	ところで	ところで(接続詞)

文部省用字用語例《引用終了》

トコロでも同じく、物理的な場所や空間のときは漢字で、抽象概念のときは平仮名で書くというのが分かる。

5. モノ

4つ目の「モノ」についての4冊に、「言葉に関する問答集」も加えて、見てみよう。{モノ}には事物を指す「物」と、人を指す「者」と、これらの抽象概念の「もの」があるので、他より少しややこしい。

スーパー大辞林《引用開始》

もの【物】

①[2][0](名)[形のある物体を初めとして、広く人間が知覚し思考し得る対象の一切を意味する。「こと(事)」が時間的に生起・消滅する現象を表すのに対して、「もの」はその現象を担う不変な実体を想定して用いる語である]

- [一]①物体。物品。「階段に-を置くのは危険だ」「窓から-が落ちて来た」
②特に、経済的な価値をもった物品。また、その品質。「-は乏しくても心は豊かでありたい」「価値は安い、-は確かだ」
③対象を具体的に表現せず、漠然という語。何らかの対象。「-を言う」「-を思う」「-も食べない」「-のはずみ」「-の役に立たない」
④対象を特定化せず、一般的・包括的という語。すべての対象。「-は考えようだ」「-には順序がある」
⑤物事の筋道。道理。「-が分かっている人」
⑥鬼や悪霊など、正体のとらえにくい対象を畏怖している語。「-に憑(つ)かれる」「-の怪(け)」
⑦取り上げる価値のある対象。ひとかどの存在。「-ともしない」「-の数ではない」「-になるかどうか」

⑧ 思考の対象として取り上げる事物をさす語。物事。「幸福という-はとかく失われやすい」「日本的な-を好む」

⑨ 一度名前を言ったあとで再びそれをさす時に、名前の代わりに用いる語。それ。「あの映画は一度見た-だ」

⑩ («…のもの」の形で)所有物。持ち物。「自分の-には名前を書いておきなさい」「人の-を借りる」

[二]①〔哲〕[(英)thing; (ドイツ)Ding]

⑦ 感知し得るさまざまな属性の統一的担い手としてのまとまりをもった空間的・時間的対象。狭義には、このもの・あのものと指し示し得る「机」「家」など外界に存在する感覚的個物をいうが、広義には思考の対象となり、命題の主語となり得るすべて、例えば心や価値などの非感覚的存在をも含めていう。

① 人格としては関係しない対象を「ひと」に対して「もの」という。

② 〔法〕権利の客体とされる、排他的支配が可能な外界の一部をいい、有体物と無体物とに分けられる。民法上「物」は有体物に限られる。

[三] 種々の語の下について複合語をつくる。

① その分野・種類に入る品物や作品であることを表す。「夏-」「西陣-」「三年-のワイン」「現代-」

② そういう事態を引き起こすような事柄であることをあらわす。「それは切腹-だ」「まったく冷や汗-だった」

③ 動詞の連用形に付いて、そのような動作の結果できた物品、そのような動作の対象となる物品であることを表す。「塗り-」「焼き-」「食べ-」「読み-」

[四](形式名詞)

① («…ものだ(である)」などの形で)

⑦ 普遍的な傾向。「どんな人もお世辞には弱い-だ」「人間はとかく過去を美化したがる-らしい」

① なすべきこと。「そんな時は何も聞かずにいてあげる-だ」

⑦ 過去にしばしば起こったこと。「二人でよく遊んだ-だ」

② («…ものだ」の形で)感動・詠嘆を表す。…なあ。「あの難関をよくくぐり抜けた-だ」「故郷とはいい-だ」「あの男にも困った-だ」

③ («…ものか」「…ものではない」などの形で)否定を強調する。「そんなことがある-か」「誰が言う-ですか」「何をするかわかった-ではない」

④ («…ものと思われる」などの形で)判断を強調する。「彼はもう帰った-と思われる」「あきらめた-とみえて、その後何も言ってこない」

⑤ («ものとする」の形で)…することとする。「甲はその責任を負う-とする(契約書ナドノ文言)」

② (接頭)形容詞・形容動詞・動詞について、何とはなしに、また、どことなくそのような状態である、の意を表す。「-寂しい」「-静か」「-古る」

もの [2]【者】

〔もの(物)〕と同源]人。古来、単独で用いられることはごくまれで、多く連体修飾語を伴って用いられる。「家の-を迎えにやる」「若い-」「お前のような-は勘当だ」「だれか試してみる-はいないか」「-は極(いみじ)き臆病の-よ/今昔 28」「人」に比べて卑下し

たり軽視したりするような場合に用いられることが多い]

スーパー大辞林<<引用終了>>

記者ハンドブック<<引用開始>>

もの

=物 [一般用語] 青物、編み物、縁起物、(政界の)大物、贈り物、近海物、壊れ物、死に物狂い、人情物、年代物、拾い物、物言い、物忌み、物入り、物憂い、物おじしない、物惜しみ、物音、物覚え、物思い、物堅い、物語る、物悲しい、物乞い、物心、物腰、物事、物静か、物知り、物好き、物する、物足りない、物になる、物の見事、物は試し、物干し、物欲しげ、物まね、物見高い、物見遊山、物珍しい、物々しい、物柔らかか、物分かり、物忘れ、物笑い、焼き物、汚れ物、**物置、物語**

[注]「もの憂い、もの悲しい」など接頭語は平仮名書きも。

=もの [形式名詞など] 親の言うことは聞くものだ、比べものにならない、こういうもの、・・・したもの、(返事は)したものの、出題そのものが間違っている、切腹もの、そうしたいものだ、その回答は正しいものと認める、人情というもの、冷や汗もの、ものの1分もすれば、もの弾み

・・・もの 臆病者、愚か者、変り者、剛の者、極道者、若輩者、怠け者、のけ者

ものかけ

=物陰 [物に隠れて見えない所] 物陰から飛び出す、物陰に身を隠す

=物影 [何かの姿、形] 不気味な物影、物影が動く

ものぐさ (物臭、懶)→ものぐさ

ものさし (物指し)→物差し

ものすごい (物凄い)→ものすごい

ものわかれ (物分かれ)→物別れ

ものをいう

=物を言う [口出し] 憶測で物を言う

=ものをいう [役立つ] 経験がものをいう

記者ハンドブック<<引用終了>>

日本語スタイルガイド<<引用開始>>

使う	使わない	品詞	使用例、他の品詞の場合の例
もの	物	形名	こういうもの、比べものにならない「忘れ物、物珍しい、物を売る」のように、名詞として使う場合は漢字で書く。

日本語スタイルガイド<<引用終了>>

日本語スタイルガイドには、「者」の記載がない。「臆病者」のような「○○者(もの)」や、法令文にあるような「○○を利用する者は」のような「者」を「もの」と読む表現は、マニュアルにはほとんど使われないので省いたのだろうと、筆者は推測する。また、「物」も使う方に分類したものがなく、形式名詞の方の注意書きとして扱っている。

文部省用字用語例<<引用開始>>

見出し	表外漢字・表外音訓等	書き表し方	備考

もの		物者 ・・・もの	物を大切に扱う 18歳未満の者 正しいものと認める、目安を示すものである
----	--	-------------	--

文部省用字用語例<<引用終了>>

文部省用字用語例も単純明快過ぎると感じる。

言葉に関する問答集<<引用開始>>

[問]「物」と「者」と「もの」

[答]「モノ」と耳で聞くと「物」か「者」か又は「もの」か分からない場合が多い。文字で書くと「者」と「物」の使い分けは大体見当が付くが、「者」と「もの」、又は「物」と「もの」との使い分けは迷うことが多い。厳密さを要求される法令・公用文では、「物」、「者」、「もの」の書き分けの基準とその例を次のようにしている。(文部省『公文書の書式と文例』<昭和55年版>による。)

「物」は有体物について用い、「者」は人間について、(法律では、法律上の人格を有するものの単数又は複数に用いる。)

また、「もの」は、「抽象的なもの」と「者と物を含むもの」に用いる。

「置き忘れた物がある。所有する物。物の出回り。自動車に積載する物の制限。」

「最高裁判所が指名した者の名簿。将来これを受ける者の一代に限り・・・」

「かかる原理に基づくものである。正しいものと認められる。」

ここに、「有体物」とあるのは、「民法」(明治29、法律第89号)の第八十五条「本法ニ於テ物トハ有体物ヲ謂フ」とあるのによったものとも思われる。しかし、広く各種の法令用語辞典では「物」を有体物に限定せず、電気・熱なども含めている。また、「法律上の人格を有するもの」とは、自然人と法人を指す。

これを一般的にごくおおまかにまとめれば、「物」は、我々が触れたり見たりすることができる形を備えた物体であり、換言すれば、物品・物質・物件・品物などについて言う。「者」は、人・人物について言う。「もの」は「物・者」を含んで事柄・物事及び抽象的な存在・対象について言う、ということになる。「物」と「者」との区別は、一応、このように比較的明らかであるが、具体的な場合に「物」と「もの」、「者」と「もの」との使い分けは、難しい場合がある。

法令では「もの」は、次の例のように、上に出てくる「者」又は「物」にある種の限定をする場合にも用いているので注意する必要がある。

- 日本国民で年齢三十年以上のもので引き続き三箇月以上市町村の区域内に住所を有するもの(地方自治法第18条・19条)
- 普通地方公共団体の所有に属しない動産で普通地方公共団体が保管するもの(同上 第239条)

言葉に関する問答集編<<引用終了>>

「モノ」は「コト」と同様に、漢字と平仮名の使い分けに迷うものが少なくない。例えば、「モノマネ」を、記者ハンドブックと毎日新聞用語集では「物まね」とモノを漢字にしているが、NHK漢字表記辞典では平仮名表記で「ものまね」としている。「モノモノシイ」は、記者ハンドブックと日本語の正しい表記と用語の辞典では

「物々しい」だが、NHK漢字表記辞典では「ものものしい」である。

「・・・正しいものと認める」という例文が記者ハンドブックと言葉に関する問答集に記載されている。この場合のモノが抽象概念であることが多いからであると思う。しかし、機械の部品で似た形や色をしたものの中から正しい部品を見つけたときなどは、「この部品を正しい物として認める」ことになるであろう。

6. 一覧(まとめ)

以上見てきたように、コト、トキ、トコロ、モノを、漢字で書く場合と、平仮名で書く場合は共通点があることが分かった。大雑把にいうと、具体的な場合は漢字、形式名詞で抽象概念の場合は、平仮名で書くということである。要約すると表1のようになる。

表1 コト、トキ、トコロ、モノでの漢字/平仮名使い分け規則(簡易版)

	漢字(実質名詞)	平仮名(形式名詞)
コト	時間的に生起・消滅する現象、具体的な事柄 [例: 考え事、事の起こり、見事]	抽象概念 [例: ことによると、見たこともない、うまいことを言う]
トキ	時期・時間・時刻そのものを示す [例: 売り時、時として、時と場合、書き入れ時]	・・・の場合 [例: いざというとき、困ったときの神頼み]
トコロ	空間的な位置・場所 [例: ある所、居所、所狭し]	位置、場所以外の抽象概念 [例: 今のところ、出どころ、法律の定めるところ]
モノ	時間的に不変な実体(物体/人) [例: 贈り物、編み物、物笑い、愚か者、のけ者]	抽象概念 [例: 比べものにならない、・・・したものだ、ものの弾み]

漢字にするか平仮名にするか、即ち実質名詞か形式名詞かの区別が容易につくものが多いが、中には区別に悩むものも結構ある。また、同じ読みで意味の同じものであっても、典拠によって解釈が異なるものも散見される。

表2 「事/こと」「時/とき」「所/ところ」「物/者/もの」の使い分け例の一覧表(見本)

「事」「こと」使用例	読み	典拠
遊び事	アソビコト	記
荒事	アラコト	記
争い事	アラソイコト	記
あらぬ事	アラヌコト	記
(彼女は私の)言うこと(がよくわからないらしい)	イウコト	林
(うまいこと(やれ))	イコト	林
(うまいこと(を言う))	イコト	記

表2は、国語辞書や用字用語集など12冊に収録されているこれら4語について、漢字/平仮名の使い分け例を集め、1語ごとに串刺し検索が出来るよう表にし

た最初の部分である。典拠欄の「記」は記者ハンドブック、「林」はスーパー大辞林、「朝」は朝日新聞の用語の手引きを表している。なお、この表は12冊の典拠に記載のあった使用例合計739個を重複しているものは一つにまとめて453個にしてから、検索しやすいように昇順ソートしたものである。結果として、「事/こと」は118個、「時/とき」は69個、「所/ところ」は91個、「物/者/もの」は175個の例を掲載できた。

この表は、A4で5ページある。本論文の付録であるが、この表を付けると本論文集の割り当てページ数(8ページ)の制限を超えるため、本稿への収録をあきらめた。

その対策として、筆者のHP(<http://www.bow-wow.jp/sht3/data.html>)の項番033に掲載しておく。

7. 終わりに

マニュアルをはじめ一般文書でも、近頃は特にデジタル化が進んでいる。用字用語の不統一は、制作者の文書作成能力のなさが如実に現れ、全体の内容までがお粗末に感じてしまうこともあるので、要注意である。最近筆者が見つけたお粗末な例として、総務省のマイナポータルWebページがある(図1)。

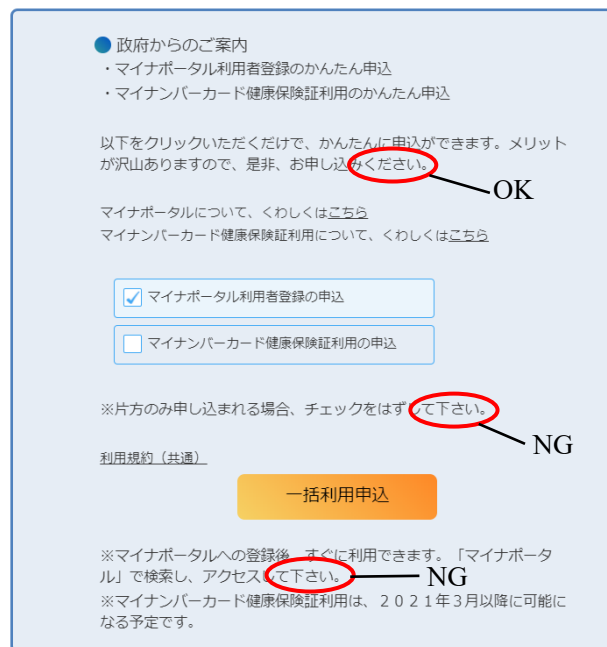


図1 総務省マイナカードのお粗末なWebページ
短い文書に、補助動詞の「クダサイ」が3個混在出現している(2020年8月19日現在)。

筆者が問題個所に○を付けておいた。なんと3個中2個がNGである。

多額の費用(血税)を払って、総務省から某業者に丸投げしたものと聞いている。Webページを作成する

場合、多くの時間をソフトのバグ出しと、動作確認に追われ、文章自体の品質は後回し、かつ担当者任せで、ほとんど時間切れで納品となることが多いらしい。でも、それは見苦しい言い訳である。やる気があれば電子版の文字修正は、何時でもすぐにできる。文章の推敲の手間を惜しんではいけない。

* * *

本稿の読点は「、」を標準としたが、引用原文に「,」が使用されているものは原文どおり「,」を使用した。また、参考文献の引用部分を紙面節約のため、行間を狭めたり、フォントサイズを小さ目にしたりしたことをご容赦いただきたい。

【参考文献】

- [1] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 「下さい」と「ください」を正しく使い分けていますか？—ほかにも「見る/みる」「言う/いう」「置く/おく」などは？—
TCシンポジウム'09 論文集 2009 pp.1-5
- [2] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 3か所？3ヶ所？—助数詞の「ka」を正しく表記していますか？—
TCシンポジウム'10 論文集 2010 pp.1-5
- [3] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン ら抜き言葉を考察する—あなたは「食べれる」派？「食べられる」派？—
TCシンポジウム'12 論文集 2012 pp.17-21
- [4] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 句点と閉じ括弧の考察—「おはよう。」か、「おはよう」か—
TCシンポジウム'13 論文集 2013 pp.36-43
- [5] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 接続詞を考察する—表記はひらがな？漢字？接続詞で短文化—
TCシンポジウム'14 論文集 2014 pp.48-56
- [6] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 句読点に何を使いますか？
—。と、ですか？それとも ピリオド・と、コンマですか？—
TCシンポジウム'15 論文集 2015 pp.18-25
- [7] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 複合動詞への送り仮名—取り扱う？取扱う？取扱？—
TCシンポジウム'16 論文集 2016 pp.31-38
- [8] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 取説やビジネス文書の項目番号の付け方—数字の他、アルファベット、片仮名などは？—
TCシンポジウム'17 論文集 2017 pp.8-15
- [9] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 用語集を作ろう

—用語集作成にあたってのポイント—

- TCシンポジウム'18 論文集 2018 pp.21-28
- [10] 貝島良太 (有)アトリエ・ワン 用語表記の統一—霞が関/霞が関/霞ヶ関/霞ヶ関？？—
TCシンポジウム'19 論文集 2019 pp.29-36
- [11] スーパー大辞林3.0 三省堂 2005
- [12] 記者ハンドブック第13版 共同通信社 2019 pp250(コト) pp360(トキ) pp362(トコロ) pp453-454(モノ)
- [13] 日本語スタイルガイド第3版 TC協会 2016 pp237(コト) pp243(トキ・トコロ) pp248(モノ)
- [14] 公用文の書き方の基準(資料集)増補二版 文化庁(第一法規) 2001 pp293(コト) pp303(トキ・トコロ) pp313(モノ)
- [15] 新聞用語集 新聞用語懇談会編 日本新聞協会 1996 pp330(モノ)
- [16] 読売新聞用字用語の手引き(第3版) 中央公論新社 2011 pp183(コト) pp277(トキ) pp279(トコロ) pp358(モノ)
- [17] 毎日新聞用語集[改訂新版] 毎日新聞社 2007 pp253(トコロ) pp352(モノ)
- [18] 朝日新聞の用語の手引き[改訂新版] 朝日新聞社 2007 pp252-253(コト) pp344(トコロ) pp421(モノ)
- [19] NHK新用字用語辞典第3版 日本放送協会 2008 pp193(コト) pp397(トキ) pp397(トコロ) pp558(モノ)
- [20] NHK漢字表記辞典 NHK放送文化研究所 2012 pp196(コト) pp398(トキ) pp401(トコロ) pp563-564(モノ)
- [21] 日本語の正しい表記と用語の辞典第三版 講談社 2015 pp491(コト) pp547(トキ) pp548(トコロ) pp610-611(モノ)
- [22] 言葉に関する問答集総集編 文化庁 1995 pp.461(モノ)

有限会社アトリエ・ワン (Atelier Bow-Wow)
取締役 兼 SuperHT³ 事業室長 貝島良太
E-mail: rkajima@bow-wow.jp
URL: www.bow-wow.jp/sht3/